FM OSAKA 開局40周年・大阪アーティスト協会25年記念特別企画

Bravo! KANSAI

宇野功芳 指揮
アンサンブル・フィオレッティ
スペシャルコンサート

企画その1 ：おとぎ歌劇「ドンブラコ」初演から100年を経てのCD初リリースを記念して
企画その2 ：関西が生んだ日本人初の国際的音楽家・貴志康一 生誕100年を記念して
企画その3 ：あの「六甲おろし」を作曲した天才作曲家・古関裕而 生誕100年を記念して

おとぎ歌劇「ドンブラコ」（全曲）

第一部 ■宝塚少女歌劇・第1回公演（1914年/大正3年）のプログラム
北村季晴作詞・作曲
おとぎ歌劇「ドンブラコ」（コンサート形式による全曲演奏）

第二部 ■貴志康一作品集
赤いかんざし / ほえかご / かもめ / 花売り娘
▶特別出演 ソプラノ：福永修子・ピアノ：水谷彰子

第三部 ■古関裕而作品集
長崎の鐘 / 高原列車は行く / 若鷲の歌 / 三日月娘 / 愛国の花

※演目は出演者の都合により変更される場合があります。

大正3年4月1日宝塚少女歌劇第1回公演「ドンブラコ」の貴重な舞台写真
© 宝塚歌劇団

2009
11/28（土） 午後3時開演

●入場料　前売￥3,500／当日￥4,000（自由席）
＊小学生よりご入場いただけます

神戸新聞 松方ホール
神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸情報文化ビル4階
●JR「神戸」駅、市営地下鉄海岸線「ハーバーランド」駅より徒歩約10分
●「高速神戸」駅より徒歩約15分

●チケット前売
大阪アーティスト協会☎050-5510-9645
電子チケットぴあ☎0570-02-9999（Pコード：330-962）
ローソンチケット☎0570-084-005（Lコード：58170）
神戸コンサート協会☎078-805-6351
松方ホールチケットオフィス☎078-362-7191

主　　催：FM大阪くらこれ企画、大阪アーティスト協会
後　　援：財団法人 神戸新聞文化財団、神戸新聞社
特別協力：キングインターナショナル
協　　力：神戸コンサート協会

お問合せ：大阪アーティスト協会 ☎06-6135-0503

発掘された日本の名曲を携えて、あの澄みきった歌声が関西にやってくる。

2003年から06年まで、大阪で計5回の歌謡曲コンサートを開いたアンサンブル・フィオレッティが、3年ぶりに関西地区で演奏します。今回のメインは桃太郎を題材にしたお伽歌劇「ドンブラコ」。これは明治45年作。東京の歌舞伎座でコンサート形式により初演、大センセーションを巻き起こし、大正3年、宝塚少女歌劇団結成の第1回公演にとり上げられました。もちろん人気曲となり、大正中期まで浅草オペラでも上演されていましたが、浅草オペラ衰退と共に忘れ去られてしまったのです。フィオレッティはキング・インターナショナルの依頼で今年CD録音し、神戸ではコンサート形式で演奏します。

このオペレッタがなぜ人気を博したかといえば、江戸時代の民謡、古謡、童謡などが20曲も使われているからで、当時の人々は20曲すべてを知っており、初演曲なのにおなじみのメロディーがつぎつぎに出て来たからでしょう。平成の私たちが知っているのは「かすみか雲か」「数え歌」「ここはどこの細道じゃ」「子守唄」「開いた開いた」など、せいぜい5、6曲ですが、それらのなつかしい旋律が西洋風の作風とぴったり合い、実にスマートに洗練された音楽として流れてゆきます。セリフは文語体ですが、かえって分りやすく、とにかく聴けば聴くほど魅力にはまってしまいます。明治末といえば日露戦争が終ったばかり。だから鬼共はロシア人として描かれ、讃美歌をうたいますし、最後は桃太郎帝国バンザイを3唱、「君が代」で幕を閉じるというユニークさです。

フィオレッティのもうひとつのステージは古関裕而の歌謡曲。今年は彼の生誕100年なので、とくに有名なものを選びました。昭和10年代、20年代は服部良一、古賀政男、万城目正などのメロディー・メーカーが競い合った歌謡曲の全盛時代で、とくに古関の実力はナンバー・ワンでした。どうぞお楽しみ下さい。

Profile

宇野功芳（うの・こうほう）

1930年生まれ。４歳のとき「金の鈴子ども会」に入会、小学校５年生まで童謡を歌う。中学、高校では合唱部に所属。国立音楽大学声楽科卒業。合唱指揮者を目指す。しかし、高校時代、当時の名指揮者ブルーノ・ワルターに熱烈なファンレターを出し、長文の返事が届いたことで、レコード雑誌から原稿依頼が殺到し、以後、心ならずも評論が主、合唱指揮は従となった。しかし、名前が知られるようになったため、オーケストラからも請われるようになり、その個性的な演奏が評価され、コンサートの多くがライヴCD化された。ベートーヴェン「第九」（キング）、「運命＋英雄」（ムジークレーベン）、「日本叙情名歌名曲選」全５点（ムジークレーベン）ほか。著書は「宇野功芳著作選集」全４巻（学研）、「クラシック名曲名盤総集版」（講談社）などがある。

アンサンブル・フィオレッティ

ソリスト、合唱団員、また指導者としてそれぞれ活動している８人が小編成の女声アンサンブルの魅力に出会い、ルネサンス、バロック期の音楽を始めとし、近現代の作品までをレパートリーとして1994年に結成。ヴィオラダガンバの第一人者、宇田川貞夫氏に師事。宇田川氏に名づけられた「小さな草花の咲く庭で（フィオレッティ）」という名のように、明るくさわやかな歌の花束を届けたいと願っている。作詞家、作曲家の方々とのコンサートや、TV出演など、多岐にわたり活躍。

2000年からは宇野功芳氏の情熱に応えて忘れられようとしている日本の歌謡曲や童謡の名曲の再生を共に行っている。

福永修子（ふくなが・なおこ）

大阪音楽大学・声楽科卒業。関西二期会オペラ研修所首席修了。平成17年度兵庫県芸術奨励賞受賞。華やかな舞台姿に加え、高音域のコロラトゥーラを駆使する確かな歌唱力に定評があり、主要オペラ、宗教曲等では欠かせない今最も注目されているソプラノである。

キングインターナショナル「たまゆらレーベル」新譜

北村季晴という人はすごい才能の持ち主だったのだ。
瀧廉太郎より7歳年上の彼だが、理屈っぽくない単純さの中に無限の内容を秘めているように思う。――宇野功芳

宇野功芳入魂、百年を経て完全に蘇った幻オペラ。

北村季晴（すえはる）：おとぎ歌劇「ドンブラコ」（全曲）

宇野功芳 指揮

アンサンブル・フィオレッティ
桃太郎：岡島 由起子（ソプラノ）／婆、雉子山拳蔵：森 康子（ソプラノ）／爺、真白野猿之助：平木 郁子（アルト）
犬野腕三郎：杉林 良美（アルト）／佐藤 和子（ピアノ）、高柳 未来（オルガン）、西田 克彦（ホルン）、宇野 功芳（木遣り）

★明治45年（1912年）に発表された北村季晴（きたむらすえはる）の「ドンブラコ」は日本最初のオペラと言われています。桃太郎に基づくこの作品は、当時非常な人気を博し、かの宝塚歌劇団第1回公演にも採用されたほど。その幻のオペラがおよそ100年ぶりに再現されました。人気音楽評論家で指揮者の宇野功芳と手兵アンサンブル・フィオレッティにより、一切の変更もカットもなく作曲者の指示に忠実というこだわりぶり。さらに作品中の木遣りを宇野氏自身が歌っているのも驚愕。桃太郎の話が親しみやすいメロディに乗って展開されますが、テンポの良さと人を惹きつける効果に満ち、一気に聴かせてしまいます。宝塚を彷彿させる女声のみのピュアな声がおとぎ話の世界を創造しています。

●CD：KKCC-3023 税込定価￥3,000 ［録音：2008年1月6日／川口リリアホール／192kHz 24bit高音質録音］

http://www.kinginternational.co.jp KING INTERNATIONAL INC.